42: 371-429. Matsuura, H. & Suto, T. 1935. Contributions to the idiogram study in phanerogamous plants I. J. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ. Ser. 5, **5**: 33-75. Miyaji, Y. 1930. Beiträge zur Chromosomenphylogenie der Berberidaceen. Planta **11**: 650-659. Moore, R. J. 1963. Karyotype evolution in *Caulophyllum*. Canad. J. Gen. & Cytol. **5**: 384-388. Toren, J. 1950. Les caractères morphologiques, anatomiques et cytologiques de *Bongardia Chrysogonum* Boiss. Rev. Fac. Sci. Univ. Istanbul Ser. B **15**: 239-263.

* * * *

中国雲南省揚子江上流地域より北太平洋沿岸沿いの温帯—冷温帯林下にやや広く分布するルイヨウボタン (*Caulophyllum robustum*) は北米東部の温帯性落葉広葉樹林下に生育する *C. thalictroides* と非常に近縁な植物として知られている。この両種は共に2倍体 (2n=16) であることがわかっている。最近 Moore (1963) は北米の *C. thalictroides* とその変種 var. *giganteum* でくわしく核型を報告し，ルイヨウボタン属の進化学的位置を論じた。一方，アジアのルイヨウボタンの正確な核型は不明のままであったので，著者らはまずそれを明らかにし，さらに二三の系統学上の問題を論議した。

Moore は *C. thalictroides* で8対の体細胞染色体組のうちに，長短2対の特徴的な中部に狭窄を持つ V および v 型染色体のあることを報じ，これらはもはや現存しない次中部に狭窄をもつ J 型の1対から構造変化で作られた腕相同染色体であろうと推論した。さらに次端部に狭窄をもつ最も短い j 型の1対はさらに腕相同のv型から腕の一部を失って生じたものであるとした。

一方著者らは邦産のルイヨウボタンで観察を行なった結果，この植物では8対の染色体組の内には中部に狭窄をもつ V，v 型染色体対は1対もなく，1対の特徴的な端部に狭窄をもつ仁染色体と1対の短い次中部に狭窄をもつ染色体，次中部もしくは次端部にそれぞれ狭窄をもつ6対などよりなり，基本的構成上で *C. thalictroides* とは異なることが明らかになった。これらの8対の染色体組のうちの何対が互いに相同であるかは現在では判じようがない。少なくとも Moore が推論した 2n=12 をもつ祖型植物よりの構造変化による染色体増加だけでルイヨウボタン属の核型進化の過程を論じさるのはあまりに不充分であり，*Caulophyllum* とミヤオソウ科 (Podophyllaceae) に属する *Diphylleia*, *Podophyllum*, *Jeffersonia*, *Ranzania* など他の属とのよりはっきりした類縁関係の解明は将来の研究に待つところが多い。

新 刊 紹 介

口カラー山の花 I, II. (1967) 東京山と渓谷社各々 pp. 200 ¥480 昨年出て好評だったIに加えて，Iに登載もれのものを集めてIIと共に揃えて出版された。必らずしも表題のように高山や深山の花とは限らぬが，2頁おきの見開き写真に 2—3 種を載せるからちょっとした図鑑である。写真が美しく詳明で，多くのアップ写真は見逃がし勝ちな花の細部や立体的な構造を再認できる点でよい。色は美しすぎる位である。

(前 川 文 夫)